

マルティネルの街角で

YKI 国際特許事務所 弁理士◇葦原 エミ
ashihara.emi@yki.jp

Vol.28 ネコのおしっこ？

「まず、外観をよーく観察してください！」
次は称呼ですね、でもって、観念も比較し。。って、
いえいえ、商標の解説ではなく、今回はワインの話。

本稿でもワインの写真を使ったりしているせいか、
筆者はワイン通と思われることが多い。が、実は何も分
かっていない。「何が好きですか？（聞き手：「ワイン
だろう」という前提に立ち、産地を聞いている）」「あ～、
日本酒以外で、アルコールが入っていれば何でも（筆者：
真面目に答えてこの程度）」

飲ん兵衛であることは認める。
飲むくせに何も知識がないのが、
だんだん恥ずかしくなってきた。
だったら、少しは勉強しようか。
そういえば、「ぶどう酒」は、パリ
条約にも TRIPS にも商標法にも
やたらと登場するし、常々、知財
で最も重要な商品なんじゃないか
とっていた。弁理士としてワイン
はもっと知っておくべきだね！

というわけで(?)、月に1回の
ワインテイスタングの会に参加
することにした。

ワクワクの1回目。4つのグラス
にそれぞれ違う白ワインが注
がれる。「さあ、外観ですが、濃
淡や色調、透明度を観察して、思っ
たとおりにメモしてみてください
」と講師であるソムリエのN氏。

「きれい」。……当然ながら、こ
れでは答えとして失格である。

「ワインAはワインBより色が薄い」。いやいや比較級
作文の練習じゃないんだから。N氏が解説する。「Aは透
明感があり輝きのある、ややグリーンがかった淡いイエ
ローですね」。続いてB、C、Dと麗しく描写してくれる。

「では、次に香りをみてみましょう。実は、白ワ
インは香りがとても大切です。グラスに注がれ
たらすぐ香りを確かめてください」とN氏。

え？ 先に言ってくださいな！

「どんな香りがしますか？」「ワインの香り、かな……」
このへんで筆者は「ワタシ、才能ゼロかも」とひしや
げる。N氏いわく、「香りは向こうからはやってきません。
自ら取りにいってください」

よし、取りにいこう。クンクン。うう、分からん。。
クンクンクン。やっぱり分からんっ！ もともと香りを
表現するボキャブラリーに乏しい筆者はN氏からヒント
をいただいた。「果実や花の香りがしませんか？」。

ならば、レモン、ライム、青い
らんど、白桃、ジャスミン、オレン
ジの花、ライラック、はたまたア
カシア？ ここでまた壁にぶち当
たる。アカシアって、どんな香り？

本来の香りが分からないので、
それに当てはめることすらできな
い。で、「ソーヴィニオン・ブラン
はどんな香り？」で衝撃が走った。

受講生の一人がほほ笑みなが
ら「ネコのおしっこ！」と一言。

「お、よく分かりましたね！」
とN氏もにっこり。

「ええっ？ な、何を言ってる
の、あなたたち??？」

後に、これは立派なワインの香
りの一表現なのだを知る。ウマの
汗、なんてのものもあるそう。

「あ、私、ネコのおしっこもウ
マの汗も嗅ぎ分けられます！」と
友人のさおりちゃん。いやいや、
あなたは獣医だし……。

こうして初回は終了したものの、筆者に残った知識は
「Sauvignon Blanc = ネコのおしっこ」だけ。でも、いい
んだ。これからは、ネコもイヌもウマも……は、さて置
き、花を愛でよう、果実や野菜の香りもちゃんと楽しも
うと思えたんだから！

さて、そろそろこれを書きながら飲んでいた
グラスも空いてきた。ま、いいか、ついでだ。
このボトルも開けちゃえーっ！



©Emi